

平成26年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	青年の家管理運営事業						担当部	こども未来部							
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	こども政策課							
	事業期間	平成22年度			～	平成30年度以降		担当係	青少年育成係							
	総合計画 分野別計画	主目的	3 教育・子育て		13 子育て支援		4 健全な青少年を地域で育てます									
		副目的														
	予算区分	款	10		項	5		目	4		大	2		中	1	
	根拠法令・個別計画	小牧市青年の家等の設置及び管理に関する条例														
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	市民が利用しやすいよう施設整備の管理をするとともに、青少年の仲間づくりを通じて、友愛の精神を涵養したり、ボランティア活動に目を向けることを目指して、より多くの青少年の参画を図る。														
	内容 (手段)	<p>◆25年度の実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の管理とともに、青少年講座の企画・運営を指定管理とした。 ・施設を利用しやすくするため、青少年団体や青少年育成団体等、目的にあった団体に料金の減免登録を実施した。 ・不登校の悩みを抱える児童生徒の適応指導教室(学校教育課主管)への協力・支援を行った。 ・青少年の健全な成長と地域に役立つ人材の育成を目指し、青年講座を6講座(ベリーダンス、ヨガ、護身術など)、親子講座を3講座(自然観察、アウトドア、ガラスアート)、小中学生講座を5講座(和太鼓、よさこい、ギターなど)実施した。 ・青少年講座修了後に結成された同好会に発表の場を提供する機会として開催していた「青年の家フェスティバル」を活性化するため、青年の家で活動している団体にも参加を呼びかけ開催した。 <p>参加団体:発表7、展示1、体験1計9団体、来場者数:約450人(主演者含)</p> <p>◆25年度直接経費の内訳</p> <p>管理運営委託料(23,933千円) 負担金等(5千円)</p> <p>◆その他財源の内訳</p> <p>青年の家使用料(792千円) 資料複写代金(47千円)</p> <p>◆25年度直接経費の内訳</p> <p>管理運営委託料(26,633千円) 備品購入費(420千円) 負担金等(57千円)</p>														
	受益者負担	有 施設使用料、資料複写代金														

		単位	H23決算額	H24決算額	H25決算額	H26予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	26,823	31,755	23,938	27,110	
		正職員	従事者数	人	0.20	0.20	0.20	0.20
			人件費	千円	1,052	1,052	1,052	1,052
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
	費用合計	千円	27,875	32,807	24,990	28,162		
対前年比	%			117.6	76.1	112.6		
財源	一般財源	千円	26,709	31,850	24,151	27,153		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	1,166	957	839	1,009		

業	活動指標名	単位		H23	H24	H25	H26
	績	開館日数	日	目標	308	307	307
実績				309	309	308	
業	講座開催回数	回	目標	50	40	40	40
			実績	39	43	61	
績	成果指標名	単位	目標				
			実績				
業	青年の家利用件数	件	目標	—	—	—	—
			実績	4,421	4,068	4,010	
績	講座参加者数	人	目標	—	—	—	—
			実績	466	714	618	

事業の自己評価	平成25年度の実施結果		
	事業の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生向けのジュニアセミナーの開催会場としても定着し、本年度は6講座開催し、目標値を上回ることが出来た。 ・青年の利用件数は、創垂館の利用停止に伴い、減少している。 	
	事業実施における課題	青年講座の参加者数が減少傾向にあり、小学生とその保護者を対象とした親子講座や、小中学生を対象としたジュニアセミナーに講座の中心が移行してきている。	
	事業を縮小・廃止したときの影響	安価で宿泊が可能なため、共同生活を伴う青少年の仲間づくりや、自主的な活動の場を提供することが出来なくなる。	
平成26年度の改善内容	26年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	新たな利用者獲得のため、新しいプログラム企画し提供しているが、定員を超える応募には至っていない。講座の周知方法を再検討すると共に、モニタリングや利用者アンケートの結果、青年の家運営委員会での意見を生かした講座開催を目指す。	
平成27年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)
	判定理由	青少年を対象とした講座の開催や、サークル活動の拠点としてのみだけでなく、育成した青少年、団体が、新たに青少年を育成することで成果の還元を行う仕組みづくりが徐々に出来つつあり、今後もそれら活動の活性化が期待されるため、現状維持とした。	
	27年度以降の改善案	青年の家利用者のサークル活動支援を行い、青年の家フェスティバル参加団体の獲得と共に、フェスティバルの運営に団体が携わり、団体同士の交流が図られるよう取り組む。	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。引き続き指定管理者のモニタリングに努め、利用者アンケート結果を活かすなど利用者の満足度が高まる施設運営に努めること。